

施設イチゴにおけるナミハダニの総合防除

食と農の研究部 防除グループ

■背景と目的

施設イチゴでは、ナミハダニという体長0.5 mm程度の小さな害虫が発生します。本種が葉を吸汁すると、葉にカスリ上の白斑が生じ、多発した場合は新しく展開した葉が委縮して生育が阻害され、大きな減収要因となります。

また、本種は、農薬に対する感受性が低下しやすく、農薬のみで防除することは困難です。

そこで、農薬以外の防除手段を組み合わせ、本種に対する総合防除体系を検討しました。

■調査内容

施設イチゴほ場において、以下の3つの防除技術を併用した「総合防除区」と「天敵のみ区」を設置し、ナミハダニの密度を調査しました。

天敵（カブリダニ類）の放飼

ナミハダニに対しては、花粉も摂食できる「ミヤコカブリダニ」およびナミハダニを好んで捕食する「チリカブリダニ」が販売されています。

高濃度CO₂施用

定植する直前の苗をアルミシートで密閉し、内部に高濃度のCO₂（二酸化炭素）を充満させることで、ナミハダニを殺虫・殺卵します。

UVB光の照射

夜間に植物体上からUVB光（紫外線）を照射し、さらに、光反射シートを畝に設置することで、ハダニ類が卵から孵化することを防ぎます。

本試験の結果、施設イチゴについて、高濃度CO₂施用およびUVB光の照射により、5月までナミハダニ密度が低く推移し、ナミハダニの密度抑制効果を確認しました。

■今後の方向性

今後は、ナミハダニ以外の病害虫に対して、農薬以外の防除手段を検討します。

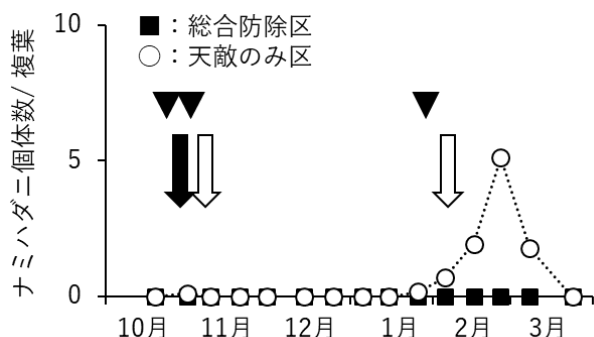
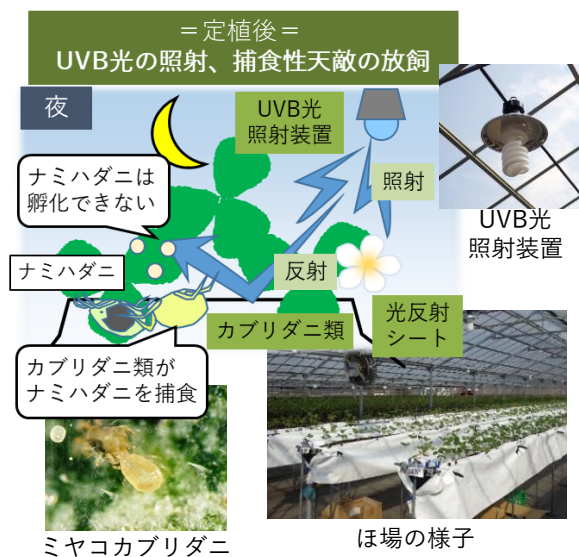
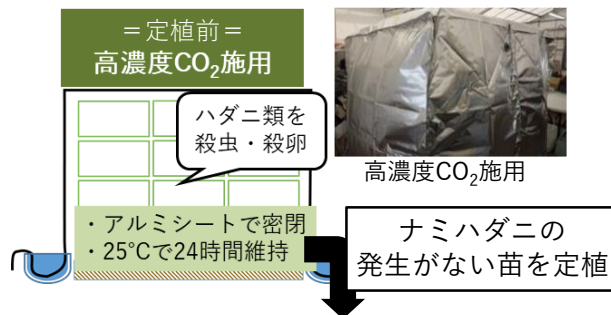
また、本事業で作成したマニュアル「施設イチゴのうどんこ病およびハダニ類防除」を活用し、総合防除技術の普及に努めます。



ナミハダニ雌成虫



ナミハダニの加害により生じた白斑



施設イチゴにおける高濃度CO₂施用およびUVB照射によるナミハダニの密度推移（2023年10月～2024年5月、河南町黒矢印：UVB照射開始、白矢印：カブリダニ類放飼、）
▼：ナミハダニに対する薬剤散布